



# Open Doors, Open Worlds

—英語で新しい世界へのトビラを開けてみよう！—

English teacher: Sakaue Wataru

## ◆第7回亀岡英語暗唱コンテストが行われました◆

今年も亀岡市内7つの中学校の生徒が参加する英語暗唱コンテストが実施されました。これは亀岡市の中学生の英語力アップを目的とした取組です。亀岡川東学園では、今年も7・8年生でクラス選考をし、2名の生徒が学校代表として出場しました。



中学校1年／7年の部



中学校2年／8年の部

二人とも表現力豊かなすばらしい発表でした。学校はもちろん、家でも数え切れないくらい練習をしたそうです。学校でもケーレブ先生にお願いして英語の発音をチェックしてもらっていた姿が印象的でした。すすんで学ぶと定着度が全然違うのだと感じました。

中学校2年／8年の部に出場した生徒は見事3位に入賞しました。中学校1年／7年の部に出場した生徒も初出場ながら、堂々と表情豊かな発表を披露することができました。

## ◆「どうせムリ」ではなく「やってみよう」で変わる人生◆

7・8年生全員が取り組んだ英語暗唱課題。決して簡単なものではありませんでした。実際に取り組んだ課題文が裏面にあるので見てみてください。これだけの英文を覚えて発表するには、何度も練習する必要があります。そして、間違いなく英語の力が付く取組です。だから、7・8年生はみんな発表に向けて一生懸命練習しました。もちろん英語が得意な人もいれば、苦手だと感じている人もいます。それでも、どの人も前向きに発表に向けて練習して準備したことは、本当に素敵なことです。7・8年生のみなさんを誇らしく思います。

最後に、ディズニーランドの創設者、ウォルト・ディズニーの言葉を贈ります。

**"All our dreams can come true, if we have the courage to pursue them."**  
**「どんな夢も実現させることができる、もしそれを追いつける勇気があれば」**



あなたは今、どんなことを頑張っていますか。どんなことであれ、「ムリ」と決めるのはいつも「自分」です。あなたの可能性を広げるのは「やってみよう」という少しの勇気。そんな「少しの勇気」の積み重ねによって、あなたの人生は、きっと、「ディズニーランド」に負けないくらいワクワクする時間になっていきます😊

## 1年生・7年生 **The Hungry Lion** (はらぺこライオン)

One day a hungry lion slowly came out of the forest. He wanted some food. He sat on the grass and looked around. He waited for a long time.

The lion saw a rabbit under a tree. He ran after the rabbit. Just then, a deer ran in front of the lion. The lion wanted a big dinner, so he ran after the deer. The deer ran away very quickly. The rabbit ran away, too. So the hungry lion got nothing.

Sometimes we are like this lion.

ある日、お腹を空かせたライオンが、ゆっくりと森から出てきた。そのライオンは何か食べ物かほしかった。草の上に座り、周りを見回した。ずっと長い間待っていた。

ライオンは木の下にいる一匹のウサギを見つけた。彼は、そのウサギを追いかけた。すると、一匹のシカがライオンの前を走った。ライオンは、たくさん食べたかったので、彼はシカを追いかけた。シカはすばやく逃げ去った。ウサギも逃げてしまった。だから、お腹をすかせたライオンは、結局何も捕まえることはできなかった。

ときどき、私たちもこのライオンみたいなものだ。

## 2年生・8年生 **I'll Always Love You** (ずっと大好きだよ)

This is a story about the best dog ever, Elfie. We grew up together, but Elfie grew faster than I did. We were best friends. Sometimes my parents would get angry with Elfie when she would act up. But they still loved her.

As the years passed, I grew taller, but Elfie grew rounder. She got older and her health got worse. When we took Elfie to the vet, he only said, "Elfie is just getting old." It soon became too difficult for Elfie to climb the stairs. I gave Elfie a soft pillow, and before we fell asleep, I told her, "I'll always love you." I know she understood.

One morning, I woke up and discovered that Elfie had died.

We buried Elfie together. We all cried and hugged each other. I was very sad, but it helped to remember that I always told her, "I'll always love you." Someday I'll have another pet and I'll tell it every night: "I'll always love you."

これはエルフィという今までで最も素敵な犬についての物語だ。私たちは一緒に育ったが、エルフィは私よりも早く大きくなった。私たちは親友だった。エルフィがふざけた時、時々両親がエルフィを怒った。それでも彼らは彼女を愛していた。

何年も経つにつれて、私はより背が高くなったが、エルフィはまるくなっていった。エルフィが歳を取るごとに、彼女の健康状態は悪化していった。

私がエルフィを獣医さんへ連れて行った時、「エルフィは年をとったんだよ。」と彼は言った。その後すぐに、エルフィにとって階段を上ることは、とても難しいことになった。

私はエルフィに柔らかい枕をあげた。そして眠る前に、「ずっと大好きだよ。」と私はエルフィに伝えた。私は、彼女がその言葉を理解していたと今も思っている。

ある朝、私は目覚めて、エルフィが死んでしまったことを発見した。

私たちは一緒にエルフィを土に埋めた。私たちはみんな泣いて、お互いにハグをした。

私はとても悲しかったが、「ずっと大好きだよ。」と毎晩彼女に言ったことを思い出した。

いつか私は他のペットを飼うだろう。そして毎晩「ずっと大好きだよ。」と伝えるつもりだ。